

平成 26 年 11 月

ライチョウの概要

キジ目 ライチョウ科

(学名 *Lagopus mutus japonicus*)

絶滅危惧 I B 類 (環境省レッドリスト 2012)



I. 現状

1. 分布及び個体数

- ・ 日本のライチョウは、北半球北部に広く分布する種ライチョウ (*Lagopus mutus*) の中で、分布の最南端に隔離分布する亜種。
- ・ 高山帯に隔離分布しており、現在の分布域は頸城山塊、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山、南アルプス。
- ・ 1980 年代には約 3,000 羽と推定されたが、2000 年代には 2,000 羽弱に減少したと推定されている (信州大学)。

2. 形態及び生物学的特性

- ・ 成熟個体で全長 37cm。
- ・ 夏羽は白・黒・茶の斑模様で、冬羽は尾を除き全身白色となる。
- ・ メスは 6 月にハイマツなどの根元など地上に窪みを作って巣とし、6 卵ほど産卵する。
- ・ 主な食物は高山植物の芽、種子など植物質。春から夏には昆虫類なども食べる。
- ・ 遺伝子解析から、5 つの遺伝集団 (頸城山塊、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山、南アルプス) に分かれていると考えられている (信州大学ほか)。

3. 好適な生息地

- ・ 主に本州中部の標高 2,200~2,400m 以上の高山帯 (ハイマツ林帯や岩石帯) で繁殖し、冬期には亜高山帯にも降りて生活する。

4. 生息を脅かす要因

- ・ 捕食者となり得る種の分布拡大による影響 (キツネ、カラス等)
- ・ 従来生息していなかった種 (ニホンジカ、ニホンザル等) が侵入し、高山植生が採食されることによる生息環境の劣化
- ・ 山岳環境の汚染に起因する感染症の原因菌等の侵入
- ・ 登山客等の増加に伴う攪乱
- ・ 気候変動による営巣環境・植生等への影響

II. 保護の取り組み

- ・ 種の保存法に基づく国内希少野生動植物種 (平成 5 年)。保護増殖事業計画策定 (24 年)
- ・ 国指定の特別天然記念物 (大正 12 年)。
- ・ 生息地の多くが国立公園 (上信越高原国立公園、中部山岳国立公園、南アルプス国立公園) や鳥獣保護区 (北アルプス鳥獣保護区) に指定。
- ・ 長野県希少野生動植物保護条例に基づく指定希少野生動植物 (平成 16 年)
- ・ 生息域外保全に関連し、国内の動物園 6 施設において、別亜種スバルバルライチョウによる飼育・繁殖の知見の集積が行われている。